

教育長室からのお知らせ NO. 65(令和2年12月)



教育長 田中 康寛

本格的な冬の到来を迎え、寒さがひとしお身にしみるところとなりました。12月の声を聞くと、もう一年が終わるのかと思ひ、月日の流れの速さを感じます。

来年、令和3年は丑年です。十二支の動物の中で最も歩みの遅い丑の年は、先を急がず、一步一步着実に物事を進めることが大切な年とされています。前年の子年に蒔いた種が発芽し成長する時期とされ、結果を求めず、それにつながる道をこつこつと作っていく時期とされるようです。まさに、依然続くコロナ禍で、教育に係る環境が一変し、教育委員会はもとより、社会教育施設を利用する多くの団体においても、新たな生活様式に合わせた活動を徐々に開始し、今後の教育のあり方を模索している重要な時期といえるのではないのでしょうか。

さて、市内公立幼稚園及び各校においては、コロナ禍にあっても、各園・学校の工夫により子どもの学びが保障されています。これからはインフルエンザの流行やコロナの第3波に備え、カリキュラムの見直しを図ることも求められます。組織全体で相互に確認しつつ、一人一人の学びを止めることのないよう、教育活動を進めてまいります。

また、年度末に向けて、今年度の進捗状況を点検することで、見直しや改善すべきところを洗い出し取組を再構築することも必要です。子どもの活動に、ある程度の制約がかかってしまう今般の状況だからこそ、子どもの声にならない声に耳を傾ける、「子どもアドボカシー」（子どもは自分に関わる決定について意見を表明することができ、その意見を大人によって聴かれ考慮される権利があるということ）を大切に、日々の教育活動に取り組んでまいります。

12月26日から1月4日まで冬季休業となります。子どもたちが家庭や地域で過ごす中、各園・学校では、特に自分の命を守ることを最優先とする安全指導を行ってまいります。例年より短い冬季休業となりますが、子どもたちを地域全体で見守ってくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

結びに、今年のコロナ禍での市川教育を振り返ってみますと、教職員が学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに捉え、3密対策をはじめICT関連や個別最適な学びなどの新たな教育課題と向き合ってきました。教育委員会では、令和3年も引き続き、家庭・学校・地域と連携しつつ、子どもたちの成長のために全力で取り組んでまいります。